

# 被爆70年のつどい ニュース No. 1

2015. 8. 10 「被爆70年のつどい」実行委員会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-5 ゲイブルビル9F 電話 03-3438-1897

FAX 03-3431-2113

Email hibaku70jikko@gmail.com

## 賛同者50名19団体に 広がる

「被爆70年のつどい」実行委員会の呼びかけに答えて、続々と賛同者が集まっています。

「日本国からは正当な補償と謝罪を、世界からは非核の良心を、若い世代からは不戦の決意を私たちの努力で勝ち取りたい」（小林節氏）、「被害者の補償もせず、また戦争を始めようとする安倍政権に強く抗議します」（鎌田慧氏）など、戦後70年を迎えて、熱いメッセージが沢山寄せられ、励まされています。（裏面参照）

## メイン企画 大学生が

### 被爆者にインタビュー

メイン企画では、大学の研究者の協力も得ながら、映像や音楽も入れて70年の歴史と被爆者のあゆみを振り返ります。

つどい実行委員会で企画会議に参加した学習院大学二年生の堀池美帆さんは「70年前と今の日本の雰囲気がよく似ていると言われるが、それはどういふことなのだろう」と疑問を抱き、被団協の吉田一人さんにインタビュー。「戦争は始まったから止められない。全ては『戦争だから』で我慢させられ、徐々に生活の全てが戦争になっていく」「戦争の犠牲を受忍しろという政府に対し、被爆者は政府の戦争責任を追究し、補償を求め、核兵器の廃絶を掲げて地道に活動を続けてきた」というお話を聞く中で「記憶の継承とは、ただ話されたことを繰り返すのではない。一人一人が未来にどう責任を持つかということではないか」と気づいたといいます。

つどいに参加された人がこの思いを共有できるように、企画会議で内容を練り上げています。

## リレートークに

### 多彩な顔ぶれ

長年空襲被害に対する国の補償を求める運動の先頭に立ってこられ、今年九月に百歳になる全国空襲被害者連絡協議会顧問の杉山千佐子さん、沖縄在住で日本青年団協議会会長の照屋仁士さん、等身大の言葉で日常

的に広島市の平和公園で平和ガイドを務める村上正晃さん、高校生平和ゼミナールで活動する高校生など、多彩な顔ぶれが集まりました。テーマは「未来に向けて」。戦争体験の継承に取り組む各地の活動が生き生きと語られます。

## チケット・チラシが

### 出来ました

広島市立基町高校創造表現科OGの大西裕菜さんが、被爆アオギリをモチーフに素敵なデザインのチラシを作成してくれました。「被爆の記憶の継承」をテーマの一つとするつどいにピッタリのチラシです。

チケットも出来上がり、早速普及活動が始まっています。日比谷公会堂は2500席。ぜひお誘い合わせてご来場下さい。

チラシを配布していただける方、チケットを預かって下さる方は実行委員会までご連絡下さい。郵送でお届けします。